

**Youth Voice to Youth Impact: Adult Interpretation and Application of a
Youth-led Project-Based Learning Product in Different Educational Contexts**

**（若者の声が拓く影響力：若者主導の学習成果物を大人が読み解き、
異なる現場で実践する過程）**

研究指導教員名 Professor Fiona Creaser

専攻 文化・言語

学籍番号 2024M41002

氏名 Pearson Christine Rae

本研究は、課題解決型学習（PjBL）で若者が作成した成果物が、異なる教育現場でどのように解釈され、活用されるかを検証するアクションリサーチである。既存研究は PjBL の学習成果に焦点を当てているが、若者が作った教材のライフサイクルや、元の文脈を超えた持続可能性、拡大、大人による実践についてはほとんど注目されてこなかった。

本研究は二段階で実施された。第一段階では、9 ヶ月間にわたり、10 代の若者 4 名（16～19 歳）と大学生 4 名が、大人のファシリテーターの支援を受けながら若者向けワークブックを共創した。ワークブックは健康、金銭管理、教育、キャリア、地域とのつながりという 5 つのテーマを扱い、内容、言語、優先事項は共創に参加した若者たちが決定した。

第二段階では、第一段階に参加したファシリテーターが北九州市立大学の公開講座で新たな受講生とともにワークブックを使用した。データはファシリテーターの振り返り、受講

生のフィードバック、観察記録を通じて収集された。理論的分析では、市民センターや日本の一般的教室など他の文脈での実施可能性も検討し、異なる組織構造や文化的背景が若者の声の影響にどう作用するかを考察した。若者が実質的な内容を創り、ファシリテーターが第二段階でその内容を魅力的で応用可能な教育構造に設計する共創プロセスは、両段階における世代間協働の重要な特徴であった。

研究成果から、若者の声は新しい文脈でも実質的に保持できるが、それにはファシリテーターの意識的なコミットメントと好条件な組織環境が必要であることが明らかになった。公開講座では、ファシリテーターがワークブックのくだけた言葉遣い、学習者中心のアプローチ、内省的活動の保持に注力した。ファシリテーターのコミットメントと支援的環境の両要素が、若者の声の維持と、受講生の自信、リーダーシップ、社会的責任感、ウェルビーイングにおける肯定的成果に影響を与えた。成功の背景には、成績評価のプレッシャーがないこと、自発的動機、厳格なカリキュラム要件の不在、共創プロセスに関わったことでワークブック内容と若者の声の優先に精通したファシリテーターといった文脈要因があった。

しかし、ファシリテーターが若者作成の教材に精通していても、異なる文脈で若者の声を保持するには支援的な組織構造が必要であることも判明した。この知見は、ファシリテーターの知識とコミットメントは不可欠だが、教材の忠実な実施を保証するには不十分である可能性を示唆し、構造的条件が若者作成教材の意図通りの活用を根本的に左右することを示している。

市民センターや日本の一般的教室での若者作成成果物の活用に関する理論的分析では、特定の条件下で若者の声を保持することに重大な課題が存在することが明らかになった。

日本における受験準備重視、生徒と教師の階層的関係、同調性、義務化された学習指導要領は、PjBL を通じて若者が作った教材の若者中心・探究的・主体性育成アプローチと根本的に相容れない可能性がある。共創プロセスに馴染みのない教育者は、くだけた言語表現に問題を感じたり、内容を補足したり、組織要件に合わせて教材を改善する目的で若者の視点を意図せず変更したりする可能性がある。これらの知見は、単に教材を適応させたりファシリテーターを訓練するだけでなく、組織や文化そのものを系統的に変革する必要性を示唆している。

理論的には、本研究は若者が開発した PjBL 成果物が元の創作期間を超えたライフサイクルを示すことで既存文献に貢献し、方法論的には、実践者が共創者と実施者の両方として機能する実践者アクションリサーチの価値を実証し、実践的には、これらの成果物を異なる文脈で成功裏に転用・活用するために必要な潜在的条件を特定している。研究成果は、若者が作成した PjBL 成果物を元の文脈を超えて拡大することは、好条件な構造的環境と若者の声を増幅する実践者訓練に依存することを示唆している。本研究は、若者作成の成果物は特定の条件が存在する場合に新しい文脈で意義ある成果を達成でき、これらの成果物を拡大する際に実践者が直面する課題は、若者の声と学習者の主体性が繁栄できる文脈を特定または創造する必要性にあることを実証している。